

Y05a 九州大学における星空案内人資格制度を利用した教育活動

藤原智子, 鈴木右文, 山岡均, 花田俊也 (九州大学)

九州大学では、複数部局の教員が連携して行う異分野融合型宇宙教育プログラムを2011年度より開始し、「ペガサスプロジェクト」という愛称で活動を行っている。プロジェクトの目的は「宇宙」をキーワードとして様々な分野を融合した授業を展開することと、星空案内人(星のソムリエ)資格制度を利用したマネジメントの実践教育及び社会貢献である。本講演では、星空案内人養成の取り組みとその成果について報告する。

星空案内人は2003年に山形大学で始まった資格制度で、九州大学では2010年度より全学教育科目の少人数セミナー「星のソムリエになろう！」(担当:藤原智子)で認定講座を開始、これまでの3年間で67名の学生が準案内人の資格を取得した。この科目では学生が一方的に学ぶだけではなく、身に付けた知識を第三者に伝えていくことを目指し、授業の最後に一般向け天体観望会「九大 星まつり」を開催することを特徴とする。

受講生の多くは資格取得後も天体観望会などの活動を積極的に行っている。学内では主として一般学生を対象とした天体観望会を伊都キャンパスで行っており、去年6月に行った金星の太陽面通過観望会は新聞にも取り上げられた。学外では、キャンパス周辺の小学校や公民館などから依頼される観望会での活動が多いが、これまでに東日本大震災被災地でのボランティア活動なども行っている。これらの活動は多くの参加者から好評を得ただけではなく、学生側にも明らかな成長が認められた。

星空案内人の活動は、単に資格を活かすだけではなく社会貢献にも繋がり、また星の魅力を自分の言葉で人に伝える体験を通して企画力やプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を高め、社会性を養うことに有効であることがわかる。